

<小学校 生徒指導>

人間関係を豊かにする生徒指導

—— 小規模校における担任の関わりを通して ——

糸満市立喜屋武小学校教諭 仲西 栄 信
指導講師 佐敷町教育委員会指導主事 眞栄城 功

内容要約

小規模校の特色を生かして、学校生活や学校行事で、縦割り活動や隣学年との交流ふれあいを行っている。その中で、お互いが協力したり、助け合ったりするような場面が多くなり、人間関係が豊かになり、併せて、個性の伸長を図ることもできた。また、地域活動に参加して、地域の人々とふれあいを持つことで、児童の健全育成にもつながり、地域の教育力も高まりつつある。ひいてはそれが、学校生活の向上にも結びついてきている。

【キーワード】 学校生活・人間関係・自己実現・地域の教育力

目 次

I テーマ設定の理由	21
II 研究仮説	21
III 研究の構想図	22
IV 研究内容	23
1 テーマについての基本的な考え方	23
V 実践事例	24
1 全職員の共通理解の図り方	24
2 学級の様子	24
3 授業実践（学級指導）.....	24
4 授業実践（道徳）.....	25
5 ふれあいタイム	26
6 朝の読み聞かせ	27
7 運動会について	28
8 子供たちの地域行事への参加の奨励	29
VI 研究の成果と今後の課題	30

人間関係を豊かにする生徒指導

—— 小規模校における担任の関わりを通して ——

糸満市立喜屋武小学校教諭 仲 西 栄 信

I テーマ設定の理由

社会の変化と共に核家族が多くなる中、今の子供たちは、テレビゲームなどの一人遊びが多く、集団で遊ぶ機会が減少してきた。このようなことから、人間関係が希薄化し、他人との関わり方が不得手の児童が増加している。そのため、お互いに協力して、自己を高め合ったりすることも少なくなり、自己中心的な児童が多くなっている。

本校は、全児童119名の全学年単学級である。学校行事は異学年の児童との関わりが多く、遠足や運動会では、隣学年どうしで見学に行ったり、演技をいっしょにやったりする。それに、小規模校であるために、全職員が全児童の名前と顔をおぼえており、学校行事や休み時間などでは、子供たちに気軽に声を掛け、人間的に触れ合う場面が多くもたれている。ところが、子供たちの学校生活を見ると「授業中、グループ学習の話し合いに参加できない児童」「清掃時間や朝の活動で、仲間に注意を受けてから始める児童」がいる。また、「自分が気にいらないことがあるとすぐに手を出したり、高学年でありながら、行動や判断力が幼すぎて仲間に入れられない児童」などを目にすることもある。このような子供たちは、友だちが少なく、いつも一人でいたり、特定の友だちとしか遊べない等、人間関係の未熟さがある。その都度、指導をしてきたがあまり効果が上がっていないのが現状である。

豊かな人間関係を築くためには、お互いが良さや違いを認め合い、協力し、共に高め合う関係づくりが大切である。それが、自己実現を図るための、基盤となる。

ところで、生徒指導においては、児童一人ひとりの個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、自己実現が図れるような指導・援助をおこなう必要がある。

生徒指導の課題の一つとして、現代の学校教育や社会生活において、望ましい人間関係の改善と促進とが強く望まれている。

近年、それが特に重要視されている。これらのことから、自己指導能力を育成し、豊かな自己実現ができるようにするためには、児童の集団の中に豊かな人間関係を育てることが必要である。そのことを、学校教育だけでなく、地域行事や地域活動に積極的に参加させることによって、地域の人々との触れ合いが多くなり、よりよい人間関係ができあがってくると考えられる。

今後、このようなことを踏まえて、本校の課題の解決に向けて次のようなことを全職員の協力で行きたい。

①「ふれあいタイム」、「朝の読み聞かせ」への参加のさせ方の工夫

②学校行事（運動会）への参加のさせ方の工夫

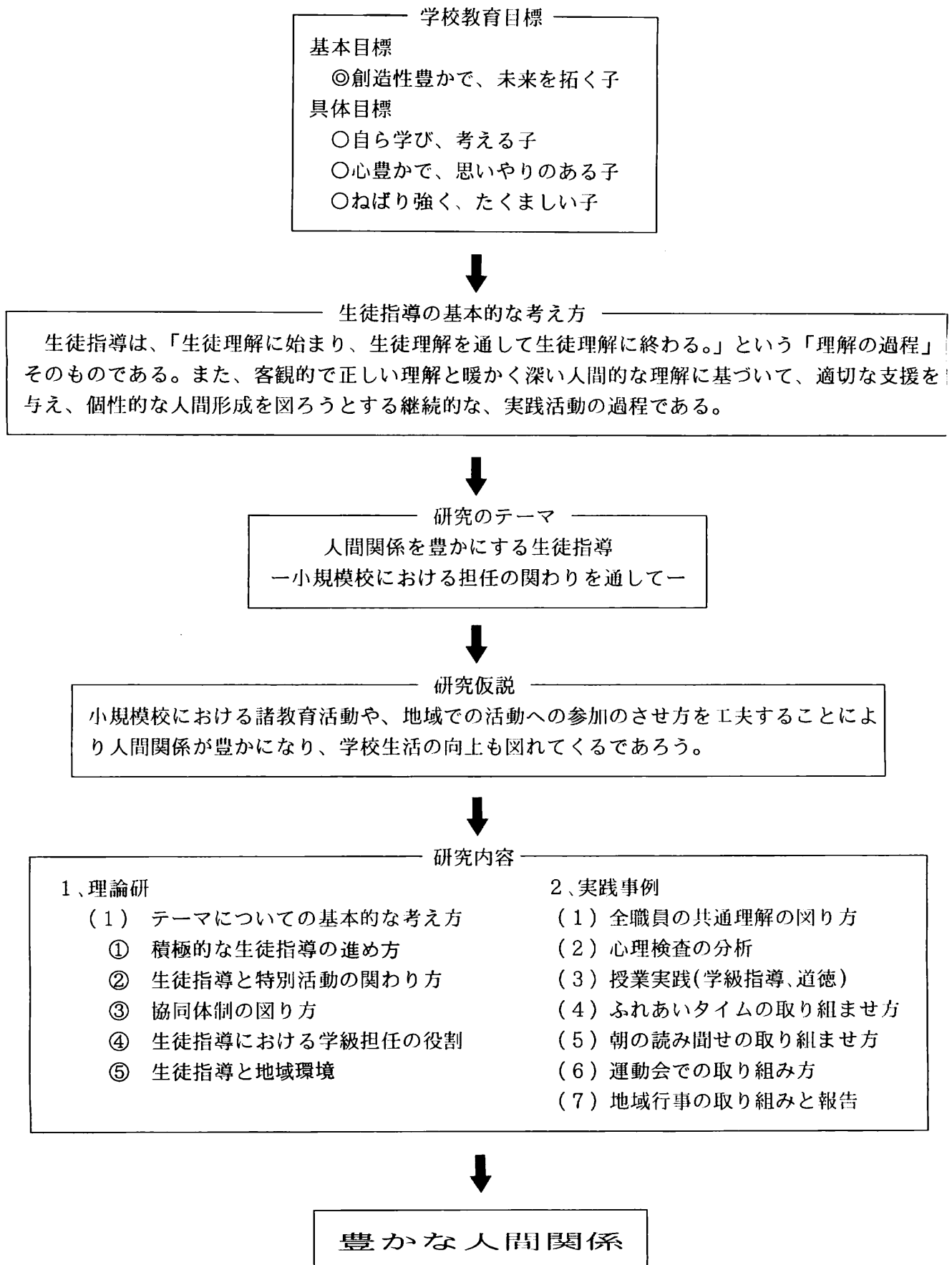
③地域行事や地域活動への積極的な参加のさせ方の工夫（地域行事、子供会、部活動等）

このように、学校生活全般において児童と教師との触れ合いや、児童と地域の人々との関わりを工夫すれば、人間関係が豊かになると考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

小規模校における諸教育活動や、地域での活動への参加のさせ方を工夫することにより、人間関係が豊かになり、学校生活の向上も図れてくるであろう。

Ⅲ 研究の構想図



IV 研究内容

1 テーマについての基本的な考え方

(1) 積極的な生徒指導の進め方

生徒指導とは、一人ひとりの児童の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や、能力、態度を育成し、さらに、将来において、自己実現ができるような資質、態度を形成していくための指導、援助である。又、個々の児童の自己指導能力の育成を目指すものである。

現在、生徒指導の充実強化が要請されている背景の一つとして、いじめ、不登校等の問題行動に対する対応の必要性が挙げられている。ところで、生徒指導の意義は、このような児童生徒の問題行動への対応といった、いわば、消極的な面だけでなく、すべての児童それぞれの人格の、より良い発達を目指す、積極的な側面が強調されている。そして、学校のすべての活動において、児童一人ひとりによって、自己実現を援助し、自己存在感を与えるようにすることを目指すところにある。

このような、生徒指導を学校生活のすべての場に十分作用させていくことが、児童生徒の問題行動の防止にも効果を上げることにつながるのである。

(2) 生徒指導と特別活動の関わり

特別活動は、学級活動のように、学級集団で行われる活動もあるが、児童会活動、クラブ活動及び学校行事のように、学級や学年の枠を外して、組織された集団で行われる活動もある。そのような活動の中から、一人ひとりの児童は発達段階や、集団の特性に応じて自分の役割を果たし、相互に協力して活動する過程で、集団の一員としての自覚を深めると共に、意欲をもって、その責任を果たすようになる。

このように特別活動における生徒指導は、各教科の指導とは異なる特質をもっている。特別活動の指導では、多くの場合、教師と児童の人間的な触れ合いの中で、励まし、援助する、称揚することを重視する指導である。それによって、児童の意欲と、自発性を引き出し、自己決定、自己指導、自己抑制が働くように導き自発性、自主性、問題解決力、創造性などを育てることが大切になってくる。

(3) 協働体制（共通理解）の図り方

① 学校生活や学校行事への参加のさせ方

- ・児童が、成就感や充実感が得られるような手だてを行う。
- ・児童に、何らかの役割を与えて、自己存在感が持てるようにする。
- ・児童が、学年に関係なく遊んだり、協力したりして交流が持てるようにする。
- ・異学年で関わった場合、高学年の子にリーダー性を育てるよう常に配慮する。

② 全職員と児童の信頼関係を育むために

- ・休み時間など児童の名前を呼び声掛けをして、コミュニケーションが取れるように心掛ける。
- ・児童が気軽に話しかけてくれるような、雰囲気を作るように心掛ける。
- ・相手の立場を考えた話し方や、時間のけじめ等の基本的な生活習慣の確立を図る。

③ 地域行事や地域活動への理解を深める

- ・地域行事への理解と参加（ハーリー、エイサー）
- ・地域活動への理解と応援参加（サッカー、バトミントン）

(4) 生徒指導における学級担任の役割

児童生徒にとって、もっとも身近で親しみやすい立場にある教師が、学級担任である。児童は、学級担任と自分の関係が好ましいものであれば、学級が心の拠り所として、のびのびと自分を発揮できる。そして、何か不安がある場合でも、このような落ち着ける学級があれば情緒的に安定するものである。

学級は、児童生徒と担任との親和関係・ラポートが持てる意味でも大切である。また、児童は毎日のように担任教師の顔を見て、話を聞いている。そのために担任教師のものの見方、考え方が響いている。

そこで、特別活動などでは「・・・するな」「・・・するべからず」ということよりも、「・・・するといい

なあ」「・・・してみたいなあ」という方向で児童生徒の主体性を大切にする言い方に変えたりすることもできる。そこで、学校生活や、学校行事においても児童一人ひとりの特性に合った役割を与え、自己存在感、成就感、充実感を得るような手だてを、学級担任としてほどこす事が必要である。

(5) 生徒指導と地域環境

児童生徒の生活は、その大部分が学校や家庭で営まれているが、直接間接に地域環境の影響を受けていることも見逃すことができない。特に、未成熟な児童生徒の場合、成人よりも、環境の影響を一層強く、しかも、持続的に受けると言われている。しかし、最近では、地域の変貌が激しく、地域住民としての感情や連帯感も希薄化し、それが児童生徒に与える影響も見落とせない。

今、非行防止や青少年の健全育成を、組織的に進めていこうとする動きが各地に見られるようになったことは、きわめて大切なことである。

学校教育以外における青少年の教育は、学校教育との関連において、次の二つの機能を持っている
①学校教育を補充する機能としての校外指導。②学校教育を拡張していく機能である、青少年のための公開講座、また、社会教育的な機能で、青年学級、社会通信教育、公民館やその他の施設による活動、青少年団体の活動などがある。

今日の青少年の諸問題に対処し、人間形成を図るためには、学校教育だけでなく、以上のような青少年の健全育成活動を盛んにして、広く学校外の青少年の教育全般にわたって、関心を高めなければならない。青少年の健全育成活動が、活発になれば、それによって学校教育も、効果を上げやすくなるであろう。また、地域の教育的な関心も高まり、青少年の非行防止の予防的な効果も期待することができるであろう。

V 実践事例

1 全職員の共通理解の図り方（小規模校の特色を生かして）

○学級担任として、普段の学校生活の様子や、心理検査の結果などから、学級の実態を確認した。そこで、学級では授業を通して、児童の人間関係の改善に努めた。また、学校生活や、学校行事の中で常に、児童一人ひとりの個性を大切にしながら、自己実現が図れるように工夫する。このような、集団活動を通して、お互いの良さや、違いを認め合い、協力し共に高め合うような、関係づくりを目指すことを、全職員の理解を図りながら取り組んでいく。

2 学級の様子

・学級（４年生１８名）の実態を心理検査「ピューピル」で行った。

自己中心性	クラスでの適応感
自己中心性 (33%)	あまりうまくいっていない
自己中心性でない (33%)	(50%)

考察

・上の心理検査から、４年生のクラスでは、自己中心的な子が多く見られ、クラスの中でも「あまりうまくいっていない」児童が５０％と多くなっている。この子供たちの結果をさらに調べてみると「いじめられている、仲間はずれにされている、学校に行きたくない」と答えている児童が多くなっている。

以上のようなことから、年間指導計画の中に学級指導では「みんな仲良く」、道徳では「思いやり、親切」を重点的に位置づけ充実した学校生活が送れるように指導する。

3 授業実践

(1) 学習指導案（学級指導）

① 題材 「みんな仲良く」（適応）

② ねらい

・学級全員が、お互いの良いところを認め合い、協力しあえるようにさせる。

③ 題材設定の理由

- ・学校生活の様子の中で、子供同士がよくけんかをしたり、文句を言い合ったりする場面を目にすることがある。その原因がさ細なことでも相手を許せない児童や、自分勝手にわがままな児童が多い。心理検査でも、自己中心的な児童が多いという結果や、クラスの中でうまくいっていないと答えた児童が、多かったので「みんな仲良く」という授業をすることによって、児童一人ひとりのよさを認め合わせることを期待した。そして、自己実現が図られ、それがひいては、クラス内の人間関係もよくなり、学校生活での児童の様子も変わってくると考える。

④ 授業の展開

過程	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料
導 入	1、けんかをしたときの気持ちを、発表させる。	・いやな気持ちになったことを、自由に発表させる。	
展 開	2、けんかになった原因について、考えて発表する。 ・誤って物を落としたから ・走っていてぶかった ・遊んでいる途中で、文句を言われた 3、けんかをしないために、気をつけたり、心掛けたりするためにどうゆうことをすれば、けんかがなくなるか考えを発表する。 ・相手をゆるしてあげる気持ち ・遊んでいてもみんなで協力する気持ち 4、学級でみんなが、仲良くするためにできるようなことを話し合う。 ・仲間はずれにしない ・決まりをもる ・みんなと協力して助け合う ・友達のいいところを見つける	・けんかの原因が小さなことから、けんかになるということを気づかせる。 ・寛容な心を持つことが、大切なことをわからせる。 ・休み時間や給食時間、清掃時間の様子を思い出しながら考える。	
ま と め	5、今日から実践できるような意欲付けをする。	・みんなで仲良く遊んだり、助け合ったりできるように意欲を持たせる。※協力の大切さ、助け合う大切さ、認め合う大切さなど	・当番札を使う

⑤ 考察

- ・授業の中では、けんかの原因や協力の大切さなどを確認し合うことができたが、それを学校生活全般で生かせるように、みんなで、認め合い、助け合う意欲を持続けるように教師の支援が大切になってくる。

(2) 学習指導案（道徳）

- ① 主題名 思いやりを行動で
- ② 題 材 「やさしいなみだ」
- ③ ねらい

- ・相手の身になって思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。

④ 題材設定の理由

- ・学校生活の中で、いつも相手の立場に立ち、言動を考えながら進んで良いことをする心情を、育成することによって、友だち同士協力する態度や、困っている友だちなどにも親切にする。そうすることによって、クラス内の児童の人間関係がうまくいくと考える。

⑤ 授業の展開

過程	学 習 活 動	教 師 の 支 援、児 童 の 活 動	留 意 点
導 入	1、困っている人に、親切にできなかった経験を思い起こさせる。	・物を運ぶのを、手伝わなかった。 ・清掃時間早く終わったのに、側で遊んでいて手伝わなかった。	
展 開	2、「やさしいなみだ」を読んで話し合う。 ・「すみません」と言われても、おじさんと目を合わせることができない「わたし」はどんなことを思っていたのでしょうか。	・どうして知らない人の世話をするのか。 ・体の不自由な人に、何をしたいのか分からない。慣れていないし恥ずかしい。 ・なぜ、今まで誰も助けなかったのかな。 ・目を合わせると悲しくなる。	役割演技をさせる（三人で）
	3、そんな「わたし」をおじさんは、どう見ているのでしょうか。	・親切にしてくれてありがとう。 ・迷惑をかけてすまないと思っている。	役割演技をさせて「わたし」と「おじさん」との気持ちを感じ取らせる。
	4、「ありがとう」と言って何度も頭を下げる、おじさんの気持ちを考える。	・心から喜んでいる。 ・すごく助かった。	
	5、「わたし」はどんな気持ちで車椅子を動かしやすい場所まで押していったのでしょうか。	・相手の身になって、親切をすることが大切だ。	
終 末	6、相手の気持ちを考えて、親切にできた経験を発表する。	・その時、相手はどんな気持ちだったのかを付け加えて発表させたい。	
	7、教師の説話を聞く。	・思いやりと親切を見逃さない目と、感じる心を養うことの大切さを語る。	

⑥ 考察

- ・授業後、当番活動や清掃時間など友だちに声かけをする姿が、見られるようになった。このような、態度が、いつでも、どこでもできるように、できた児童を誉めたりする場をもうけたり、教師の声かけをやっていく必要がある。

5 ふれあいタイム

- ・全児童を縦割りグループに編成し、全体清掃を行う中で、児童一人ひとりの個性の伸長を図りながら、高学年のリーダー性を培うと同時に、社会的な資質や能力、態度を育成しながら、集団の一員としての自覚を深めさせたい。

(1) ねらい

- ・小規模校の割に、校地面積が広く、清掃時間内では十分な手入れが不可能である。そこで、週一回（木曜日）の清掃時間を「ふれあいタイム」と名づけ、主に校舎外を中心に全体清掃を行い、校地をきれいにする。
- ・全児童を縦割りのグループに分けて、異学年の児童とのふれあいを深めながら、高学年の児童のリーダー性の育成を図る。
- ・各グループには、職員を2人ずつ配置して、全児童が担任以外の職員と勤労を通して、ふれあいの場とする。

(2) 参加のさせ方の工夫

- ・自分たちの学校を自分たちの手で、きれいにするという意識を持たせる。
- ・グループ全員が、協力して安全に気をつけ、働く喜びを持たせる。
- ・高学年の児童に、常に下級生を引っ張っていくような心構えを持たせる。
- ・担当教師の話をしっかり聞く。

(3) グループ編成及び方法

- ・グループ編成も、各清掃区域の特徴に合わせ、例えば、草が多くて草刈り作業が中心になる所には草刈りの上手な子や、カマの使い方上手な子を組んだりしている。また、グループ内での役割分担をする時でも、異学年の児童同士で組んで、高学年の児童のリーダー性を育成する。そこで、高学年の児童に方法や説明を行い、低学年の児童をリードしていくような方法を取って、仕事を進めていくようにしている。そうすることによって、各児童がグループ内での役割を自覚して、自己存在感を持つことができるようなグループ編成を行っている。

(4) 成果と課題

① 成果

- ・縦割り班編成で、下級生は上級生にいろいろ指導してもらえて良かった。学校生活や学校行事の中でも上級生と下級生との微笑ましい関係が見られた。
- ・高学年としての自覚が芽生えて、リーダーシップが出てきた。
- ・学級ではなかなかリーダーシップの取れない子でも、異学年（下級生）の中ではリーダーとして活動できた。
- ・担任以外の教師と子供たちのふれあいができた。特に低学年の児童は、喜んでやっていた。

② 課題

- ・担任が見届けることができないので、激励や注意などがその場でできない。
- ・上級生で、リーダーシップの取れない子への指導のあり方。
- ・自分自身で考えて行動できるようになってほしい。
- ・区域が広くてその時間だけでは、終われない場合がある。

6 朝の読み聞かせ（平成11年度）

- ・担任以外の教師が、本を読み聞かせることによって、児童と教師との親近感が出てくる。それに共なって、児童とのコミュニケーションが深まり、全職員の児童理解にもつながっていく。ひいては、児童教師間のよりよい人間関係ができあがってくると考えられる。

(1) ねらい

- ・全職員による読み聞かせやブックトークを実施することで他学級の児童とのふれあいの場とする。
- ・全職員が図書室の本を手にとることにより、どんな本があって、利用できるかを知る機会とする。
- ・児童の聞く態度を培い、いろいろな本への興味をうながす。

(2) 参加のさせ方の工夫

- ・始めと終わりには、あいさつを行う。
- ・話を聞くときの態度や、姿勢に気をつけさせる。

- ・わからないことなどは、質問をする。

(3) 読み聞かせの方法

- ・毎月1回、第3第4金曜日の朝の読書(8:15~8:30)に行う。
- ・全職員が、輪番で各学年に入って行う(校長、教頭も含める)。
- ・全職員と児童との、コミュニケーションの取れるような雰囲気を心掛ける。
- ・読み聞かせをする学級の実態や、子供たちの様子を配慮しながら選書をする。
- ・選書する時は、子供たちから希望を聞いて取り入れたりする(教師と児童との読書はがきなどを利用して希望を取り入れたりする)。
- ・聞く態度や姿勢をきちんとさせて、集中力を身につけさせる。

(4)

① 成果

- ・子供たちの名前を知ることによって、誉めたり援助したりする場面ができた。
- ・子供が全教師の名前を早く覚えることができた。
- ・担任以外が本を読むので、時間中は静かに聞くことができ、集中力が付いてくる。
- ・教師も、どの学年ともふれあいが持てるので楽しみである。
- ・読書意欲が出てきた。

② 課題

- ・地域ボランティアの活用方法を考える(開かれた学校、地域の生徒指導の効果にもつながる)。
- ・ゆとりを持って、本を選ぶ時間の確保。
- ・教師の読み方の工夫が、もう少し必要なのでは。

7 運動会について(平成11年9月26日)

- ・運動会という行事を通して、成就感や充実感を味わわせながら、集団の一員としてお互いの良さを認め合い、協力して共に高め合うという態度を育てることにより、豊かな人間関係が築かれる。

(1) ねらい

- ・学校教育の一環として、児童の体育学習を中心にした教育活動の発表の場とする。
- ・集団的体育学習を通して、心身ともに健康な児童の育成と体力の向上を図るとともに、運動や健康についての意欲や関心を高め力いっぱい運動する喜びを味わわせる。
- ・集団的体育学習を通して、安全で規律ある集団行動を身につけ、集団の一員としての自覚を高め協力して実践できる力を育てる。
- ・父母や地域の人々に、学校教育を一層理解してもらい、連携を深める機会にする。

(2) 参加のさせ方の工夫

- ・個々のめあてを持たせて、最後まで頑張れるようにする。
- ・種目によっては、自分たちで作戦や方法を決めて取り組ませる(リーダーの育成)。
- ・隣学年や、縦割り演技を行う場合には、みんなと仲良く協力させたり指導する先生の話をしっかり聞く。

(3) 運動会における生徒指導上の留意点

- ・行事に参加できた充実感や成就感を、全児童が持てるような種目、演技を選択する。
- ・児童の特性に応じて、係児童や応援方法などを決定するように心掛ける。
- ・集団活動の実践を通して、集団の規則や秩序を守る態度を培う。
- ・集団生活に必要な、基本的行動様式を習得させて、学校への連帯感を高める。
- ・できるだけ多くの児童が、それぞれの仕事を分担し、協力し合っていくように配慮して、積極的な活動を促し、自主的な協力の気風を高める。
- ・行事の活動事態が、人間形成上大切な活動なので、児童自身の豊かな情操を培うことができるような環境の構成を図る。

- ・運動嫌いな子供たちへの活動の場を与えて、励まし、援助するように配慮する。
- ・行事の事後指導として、学活等で称揚することによって、今後の児童の意欲を喚起させる。

(4) 縦割り演技の種目及び取り組み状況

- ・幼稚園生から3年生までのリズム『光のシャワー』

光のシャワーは、大きな布を使った演技で、布を広げたり縮めたり隊形を変えたりして、元気よく踊っていた。幼稚園生は、小学生といっしょに練習することを喜んで、運動会後は小学校の校庭にも、よく遊びに来るようになり、より親しくなった。

- ・2年生から6年生までのリズム『校歌ダンス』

青いスカーフを使いリズムに乗って踊るもので、2年生は今年初めてなので、全体練習の前に6年生が45分の休み時間を使って教えている。全体練習でも高学年を中心に、低学年に見えるような工夫をして練習を行っている。

- ・1年生から6年生までの『支部対抗リレー』

男女別に、1年生から6年生までの600Mリレーで、各支部の代表ということでプログラムの一番最後に組まれている。全体練習が1回だけなので、高学年が低学年の子にバトンの取り方、渡し方などを教え合うところが見られる。その後は、各支部で放課後など練習しているところもあった。

- ・4年生から6年生までの『エイサー』

エイサーは運動会の華である。並び方も学年プールにして、大きい人が前に来たり、小さい人が前に来たりして全部で5曲を踊る。子供エイサーだけでなく、地元で行われているエイサーも取り入れている。4年生が、初めてということで5、6年生を間に立たせて指導している。人数が少ないので、動作を大きくしたり、隊形を工夫して、いかに大きく見せるかということを考えて練習を行っている。

- ・紅白に分かれての『応援合戦』

単学級という小規模校ではあるが、クラスを紅白に分けて得点を競い合わせている。応援合戦も児童会役員を中心に、1年生から6年生までが歌をうたったりして、応援を行っている。紅白に分かれて運動会を行ってから、以前よりは盛り上がり運動会が華やかになった。

(5) 成果と課題

① 成果

- ・係活動や演技で、お互いに協力し合い、教え合う場面が見られた。
- ・演技種目によっては、1、2年生がアナウンスを担当して上手にやっていた。
- ・幼稚園児が小学生と演技をすることで、より親しくなった。

② 課題

- ・練習時、もっと集中力を身に付けさせたい。

8 子供たちへの地域行事への参加の奨励

現代の子供たちは、家庭生活や学校生活では、バーチャルリアリティー的な体験が多く、直接何かを、体験するという機会が少なくなっている。人間形成上、幼い時に色々な体験を通して、試行錯誤を繰り返し物事に関心を深めていくことは、大切なことである。

このような直接体験は、学校教育だけでは十分できないところもあり、地域の組織と連携することで、児童が地域組織の行う行事に、積極的に参加し、学校生活ではできないような体験、活動を通して、地域の人々との触れ合いができる。それが、地域の教育的な関心も高めていき、ひいては学校教育への関心にもつながっていくものだと考える。

(1) 参加のさせ方の工夫

- ・地域行事の特色や、意義を理解させる。
- ・地域活動の意義や、役割を理解させる。
- ・地域での直接体験を、学習の中にも取り入れる。

- ・地域の人々との触れ合いを通して、地域の一員という自覚と誇りを持たせる。
- ・常に安全面と、健康面には気をつけて参加させる。
- ・地域の大人の人や、指導者の話をしっかり聞く。

(2) ハーリー（旧暦 6 月 8 日）

地域で行われる行事として、休校にして、全職員が参加している。実際に船に乗って競争にも参加している。児童も船に乗り、伝統行事のすばらしさを直接体験している。

(3) エイサー（旧盆）

子供エイサーが、プログラムの中に組み込まれていて、夏休みには、本番に向けて練習を行っている。学校の運動会でもエイサーを行っているために、「子供会」のエイサーを、学校側も取り入れてやっている。実際に、「子供会」で経験している児童は、覚えも早く、やっていない児童に対しても、優しく教えたり、舞台の上に上がって手本を示してくれた。また、青年会のエイサーを見学することによって「自分も青年になったら、たいこをたたいてみたい」という声が聞かれ関心も高くなっている。

(4) 地域活動の取り組み報告

①「子供会」活動を通して

喜屋武子供育成会会長 慶留間 健一

「子供会」行事と共に、地域の行事に参加することにより、子供同士や地域の人々との触れ合いを通して、子供たちの健全育成にもつながってくる。ひいては、地域の活性化発展にもつながっていく。今後とも、学校行事や地域行事に積極的に参加していき、学校、家庭、地域が協力して、子供たちを教育していく環境を作っていきたい。（要約）

② クラブ活動を通して

三和F C 指導者 平田 徳明

・小学校時代から、サッカーを始めた子供たちが、中高校生、そして社会人になっても、続けて県代表として活躍している選手も出ている。少年サッカーを卒業した先輩達が、中学生、小学生を指導するようなつながりを大切にしていきたい。指導者としてもスポーツを通して、地域の人材作りに努めて指導を続けていきたい。（要約）

VI 研究の成果と今後の課題

1 成 果

- (1) 学校生活や、学校行事を行うときに、全職員の共通理解が得られた。
- (2) 汗を流して働く子が多く見られ、勤労意欲も高まっていった。
- (3) 児童間や、児童教師間で名前を呼んで接することで、信頼関係が深まっていった。
- (4) 地域の人々との協力体制が整いつつある。

2 課 題

- (1) クラス替えがないために、刺激や競争心が少ないので、変化のある学校生活のあり方
- (2) 指示を受けて、行動する子に対しての指導のあり方。
- (3) 児童の内面的なところまで、見れるような教師の力量を付ける。
- (4) 基本的な生活習慣の確立を図る。
- (5) 地域行事や地域活動への、親の理解と啓蒙を図る。

<参考文献>

文部省	『生徒指導上の問題点についての対策』	大蔵省印刷局	1980年
文部省	『生徒指導の手引き』	大蔵省印刷局	1981年
宮城県教育センター	『研究紀要第105号』	宮城県教育センター	1999年
坂本昇一	『生徒指導の理論』	ぎょうせい	1994年
奥田真丈	『現代学校教育全集12巻』		
小林一也	生徒指導	ぎょうせい	1980年